

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について  
(予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

《5月の病虫害発生予報》

＜作物＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
					ばか苗病	
			もみ枯細菌病			
			ヒメビウンカ (縞葉枯病)			
				イネミズゾウムシ		

＜果樹類＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				灰色かび病		
もも					せん孔細菌病	
みかん				黒点病		
				そうか病		
				コナジラミ類		
				ハダニ類		
				アブラムシ類		
果樹類全般					果樹カメムシ類	

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
			灰色かび病			
トマト			葉かび病・すすかび病			
			灰色かび病			
ねぎ たまねぎ				うどんこ病		
				ミナミキイロアザミウマ		
				コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)		
たまねぎ				べと病		
				白色疫病		
				ネギアザミウマ		

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類				アブラムシ類 (ウイルス病害)		
			ミカンキイロ アザミウマ			
			ハモグリバエ類			
				コナジラミ類		
				ハスモンヨトウ		

《今月のトピックス》

■発生が**平年よりやや多く**見られる病害虫

【もも】

もものせん孔細菌病は、今年もやや多い発生が認められました。

■現在、発生はやや少ない・平年並だが、**今後の発生に注意**が必要な病害虫

【なす】 うどんこ病・灰色かび病 (曇天・過湿が続くと発生する)

【野菜類・花き類】 コナジラミ類・アザミウマ類 (ウイルスのまん延に注意)

☆一部地域のバラ科果樹(もも、うめ、すもも)においてクビアカツヤカミキリの被害がみられます。ほ場内をよく見回り、フラスを見つけたらしっかりと対策しましょう。

具体的な対策については、4月11日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒!!」を参考にして下さい。病害虫防除グループホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

《(参考)5月の気象予報》(大阪管区气象台 4月26日発表)

気温	低い(10%)	平年並(20%)	高い(70%)
降水量	少ない(30%)	平年並(30%)	多い(40%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(30%)	多い(30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の葉いもち及び穂いもちの発生は少なかった。</li> <li>・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。</li> <li>・種子消毒を徹底する（温湯、薬剤）。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低温、日照不足の時に発生しやすい。</li> <li>・近年、他府県においてQoI剤耐性菌の発生が報告されている。 …QoI剤成分例：アゾキシストロビン（アミスター）、メトミノストロビン（イモチエース、オリブライト）、オリサストロビン（嵐）等</li> </ul>
ばか苗病	並～ やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の発生は、平年並であった。</li> <li>・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。</li> <li>・種子消毒を徹底する（温湯、薬剤）。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。</li> <li>・前年発生の多かったところでは、耐性菌発生の可能性があるため、薬剤の種類を変える。</li> <li>・発病が認められた場合、株が枯死する前に抜き取って、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗を苗代で行う場合、高温であると発生が多くなる。</li> </ul>
もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の巡回調査では、発生は少なかった。</li> <li>・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[防除上考慮すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。</li> <li>・種子消毒を徹底する（温湯、薬剤）。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。</li> <li>・出芽時の高温は発病を助長するので、温度を30℃以下にする。</li> </ul>
ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[防除上考慮すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・密植を避けて通風を良好にし、窒素肥料の過用を避ける。</li> <li>・育苗箱に箱粒剤等を施用する。</li> <li>・イネ科雑草で越冬するため、まだ耕起していない水田では早めに耕起して、密度低下を図る。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縞葉枯病を媒介する。</li> <li>・H29年11月のひこばえ調査では縞葉枯病が見られた。</li> </ul>

イネミズゾウムシ	並～やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年の巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>極端な早植は越冬世代成虫が集中し、被害が増大する。</li> <li>移植後は浅水に管理し、健全な発根を促す。</li> <li>発生が多い所では、薬剤を育苗箱施用する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫は根を食害し、成虫は葉をかすり状に食害する。</li> <li>中山間の水田で発生しやすい。</li> </ul>
----------	--------	--

## B 果樹

### 1 ぶどう (デラウェア)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月から10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。</li> </ul>
灰色かび病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス栽培では換気やマルチングを行い、湿度を下げる。</li> <li>落花直後の花がらを取り除く。</li> </ul>

### 2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回調査では、発生はやや多かった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝染源となる春型枝病斑は除去し、適切に処分する。</li> <li>薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前後が効果的。</li> <li>風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近畿におけるせん孔細菌病の発生は「多い」と予想されている（農林水産省：平成30年4月18日付け「平成30年度病害虫発生予報第1号」）</li> </ul>

### 3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。</li> </ul>
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生の多い園地では、落弁期の防除を徹底する。</li> </ul>
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
ハダニ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。</li> </ul>
アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・黄色水盤による誘殺虫数はやや多かった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

### 4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年のフェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並～やや多かった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。</li> </ul> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿における果樹カメムシ類の発生は「多い」と予想されている（農林水産省：平成30年4月18日付け「平成30年度病害虫発生予報第1号」）</li> </ul>

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 (QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。)</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が 23~28℃位で、湿度が高い条件で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。</li> </ul>
灰色かび病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。</li> <li>・QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
うどんこ病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。</li> <li>・QoI 剤 (アミスター、ストロビー)、SDHI 剤 (アフエット) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
ミナミキイロアザミウマ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定植時には、粒剤やかん注処理により剤を施用する。</li> <li>・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。</li> <li>・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。</li> </ul>

## 2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。</li> <li>・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
灰色かび病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。</li> <li>・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。</li> </ul>
コナジラミ類 (トマト黄化 葉巻病(TYLCV))	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設では、開口部を寒冷紗等(0.4mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ほ場周辺の除草にも努める。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・感染株は見つけ次第抜き取り土中に埋める等処分する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。</li> </ul>

### 3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・一部ほ場で二次感染株が見られた。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場の排水を良くする。</li> <li>・発病した株は翌年の感染源になるので、ほ場外に持ち出して処分する。</li> <li>・すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。</li> <li>・一昨年に激発したほ場では、丁寧に薬剤散布を行う。</li> <li>・現在、発生のないほ場でも、予防的に薬剤散布を行う。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に、QoI 剤（ホライズン）、CAA 剤（プロポーズ、レーバス、ザンプロ）、フェニルアミド系（リドミルゴールドMZ）は耐性菌が発生しやすいため連用は避ける。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・べと病は多湿、日照不足で多発する。気温が 15℃前後で、降水量が多いと増加する。特に4月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと発生が多くなる。葉に黄変を生じず、突然灰色～黒色のかびを生じることもある。</li> </ul>
白色疫病	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白色疫病は多湿、日照不足で多発する。</li> </ul>
ネギアザミウマ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並みだった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期の防除に努める。</li> <li>・同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>



**D 野菜類・花き類**

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類 (ウイルス病害)	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・黄色水盤による誘殺虫数はやや多かった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。</li> <li>・ほ場周辺の除草に努める。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス (CMV) などがある。</li> </ul>
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月から発生が増えるので、少発生時の防除を徹底する。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。</li> <li>・ほ場周辺の除草に努める。</li> </ul> <p><b>[メモ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス (TSWV) を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。</li> </ul>
ハモグリバエ類	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期の防除に努める。</li> <li>・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。</li> <li>・施設では、開口部をネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。</li> <li>・しゅんぎくや大阪しろな等では、収穫後に地表面をビニール被覆し、1日間太陽熱により土中の蛹を殺すこと(晴れの日丸1日ビニール1枚敷き)で、次作の被害を軽減できる。(4~10月の間可能。但し4、10月は効果がやや低い。)</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ほ場周辺の除草にも努める。</li> </ul>

コナジラミ類	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・黄色粘着トラップへの誘殺虫数は、やや少なかった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期の防除に努める。</li> <li>・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。</li> <li>・施設では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ほ場周辺の除草にも努める。</li> </ul>
ハスモンヨトウ	やや少ない～並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェロモントラップへの誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。</li> <li>・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病虫害発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病虫害情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)